

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01891

研究課題名(和文)アントレプレナーシップにおける企業統治と事業転換過程の質的比較研究

研究課題名(英文)Qualitative Comparative Study of Corporate Governance and Business Transformation Process in Entrepreneurship

研究代表者

山田 仁一郎 (Yamada, Jin-ichiro)

京都大学・経営管理研究部・教授

研究者番号：40325311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：最大の成果は、バイオベンチャーの経営戦略転換についての実証研究で企業家研究フォーラム賞を受賞した黒木淳教授との共同研究である。また、組織科学誌にて経営者による企業統治の監視中和化についてのメカニズムを明らかにした論文を発表し、その中で女性取締役選任の複雑な要因を示した。戦略的アントレプレナーシップ領域の研究をManagement Research Review誌に系統的にまとめて掲載された。また、吉村典久教授とのスピノフ経営学の研究を刊行し高い評価を受けている。パンデミックの影響により一部調査等が遅れたが、日豪比較の質的比較分析研究も研究は投稿・再投稿中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果としては、アントレプレナーシップ分野の学会において学会賞を受賞する実証研究を上梓できたことや、社会科学の中心的な査読雑誌である組織科学にも質的比較研究論文を掲載したこと、国際査読誌にも論文を発表するなど、本研究プログラムが狙いさだめた分野において、一定程度の高い成果を、難しい研究環境下において達成したと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The biggest achievement was a joint research project with Professor Jun Kuroki, who won the Entrepreneurial Research Forum Award for his empirical research on management strategy change in bio-venture companies. She also published an article in the Journal of Organisational Science on the mechanism of surveillance neutralisation of corporate governance by managers, in which showed the complex factors behind the appointment of female directors. A systematic summary of her research in the area of strategic entrepreneurship was published in Management Research Review. We also published a highly acclaimed study on spin-off management studies with Professor Norihisa Yoshimura. Research on qualitative comparative analysis of Japan-Australia comparisons is also in the process of being submitted and resubmitted, although some research and other activities were delayed due to the pandemic.

研究分野：経営学

キーワード：アントレプレナーシップ 事業転換(ピボット) ベンチャー 経営戦略 企業統治 取締役会 出口戦略 質的比較分析(QCA)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、急進的な技術革新がもたらす帰結として、企業の存立基盤となる市場と社会が根本的に変化を遂げているということが挙げられる。広義のアントレプレナーシップは、新興起業にかかわる雇用創出・生産性向上、新製品・市場の開発など全般に関わる概念として理解されている。我が国の中小企業研究は前者に、大企業との関連性を重視したイノベーション研究は後者に偏向する傾向があり、相互接続された研究の取り組みがミッシングリンクとなってきた(山田、2015; 林・山田、2018)。

アントレプレナーシップの社会経済的重要性とは、本質的に企業活動のライフサイクルの開始時期の起業ステージだけではなく、発展段階のそれぞれのステージにおける出口や節目に関わっている。ファミリー・アントレプレナーシップ研究が国際的に関心を寄せる長寿企業の研究にあるように、祖業や本業からの事業転換を戦略的に成し遂げることができれば「第2創業」となり、次の発展的ステージへと向かうことができる(林・山田、2017)。

その一方、アントレプレナーシップが新しい技術や市場の創造を遂行する背後のメカニズムには、株式所有構造の変化が資金調達のあるり方を変えていくダイナミックな過程がある。資本とそれに係る制度が形づくるパターンとは、すなわち企業の統治構造である。アントレプレナーシップにとって、企業統治はその経営行動の存立基盤の重要な構成要素とみなすことができる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アントレプレナーシップにおける企業統治のメカニズムを事業創造と転換の過程を追跡分析することによって、解明するものである。統治のメカニズムは企業家の監視機能の他にも経営資源の供給源としての役割であるとともに、社会のリスク負担を担う企業の存立基盤となる不可欠要素である。事業の創造と転換には、その企業統治のダイナミックな変化が伴うことを質的比較の実証データ分析から明らかにすることが独自性である。

企業成長とは、統治構造の変化である。新しい事業創造とその転換のためには、その要となっている統治構造は固定的であるよりもむしろ可変的であることが望ましく、また上場企業だけに機能的なガバナンス・メカニズムが求められるわけでもない(Gabrielsson, 2017)。アントレプレナーシップによる企業の存立基盤のダイナミックな発展を明らかにするためには、そのガバナンス構造を形づくるメカニズムの組み合わせの変化、すなわち「ガバナンス・シフト」(林・山田、2018)と呼ぶ現象が生じていることが理論的に仮定できる。

これまでの関連研究の蓄積は、第一に、テクノロジー・スタートアップの研究のビジネスモデルの発展や資金調達に注目したが、その基盤となる企業統治の実態は明らかにしてこなかった。第二に、中小企業研究は、経済社会における生態学的な危機や意味付けについて研究されてきたが、その事業転換(pivot)や第2創業の実証研究は遅れており、アントレプレナーシップならびに、その関連の企業統治の理論的な知見については積極的に活用してこなかった。第三に、テクノロジー・スタートアップならびに中小企業のアントレプレナーシップ(すなわち、事業転換や第2創業)についての質的比較研究(QCA)アプローチは、国際的な学術的研究分野でもまだ萌芽期にある。

本研究は、我が国の経済社会にとってアントレプレナーシップが最も重要な課題となっていることに対して学術的に創造性の高い「ガバナンス(統治)・シフトとアントレプレナーシップ」という観点から、上記のような先行研究の限界ならびに内外の学術動向に沿って計画されているという点において、創造性が高いといえるであろう。

3. 研究の方法

2つのアントレプレナーシップのケース群のデータベースを構築していく。1つの群は、伝統的な産業の取引慣行の中に埋め込まれている印刷工業組合に属する中小企業群である。印刷工業組合からは全面的な調査協力を得られており、未上場企業のファミリー型の特性の強い取締役会や株主統治関係に基づく事業転換(Pivot)と創造のアントレプレナーシップの25社程度のインタビュー調査とケーススタディを進めた。

もう1つの群は、我が国の大学発ベンチャーを含むバイオベンチャー企業群である。経産省大学発ベンチャーデータベースの開示データの390社のうち医療関連が約120社あり、そのうちのベンチャーキャピタルから出資を受けている未上場のベンチャー企業群25社程度のインタビュー調査とケーススタディを進めた。

また大学を起点とする新技術の商業化過程なども含めて、アントレプレナーシップの主要なプレイヤーである創業者ならびに事業開発に関わっている技術関連担当の取締役や投資家、従業員や専門職(弁護士・会計士・大学教授)特にバイオベンチャーの場合には社外取締役、印刷企業の場合には取引先や金融機関に対して、インタビュー調査を遂行し、その企業統治のネットワーク構造やメカニズムを明らかにする。

技術革新は日進月歩であり、未上場企業もまた高成長を生み出すため、事業創造と転換のために、さまざまな経営課題に直面し、その中でも企業統治に関わる整備や対応は極めてコスト的にも企業家(経営者)の能力に対する負荷も大きい。そこで上場前の事業創造や事業転換の前後や経営改革を経験した未上場企業の双方を対象にする。事業承継・MBO/ IPO・M&Aなどのクリティカルな論点をカバーする各ケースを網羅的に収集して整理し、数社という単位ではなく、数十社

の事実関係について質的比較分析を行うことで、我が国の実態としてのアントレプレナーシップの統治メカニズムの課題を明確化する。

我々はこうした粘着性の高い情報に基づきながらも、データベースを構築し、可能な限り透明性の高いプロセスによって事業創造と転換における統治の課題要因を明らかにするために、質的比較分析(QCA)を実施する。QCAは、ある原因をもたらし条件の組み合わせの発見に適した分析手法である。統計的分析に適さない小規模サンプルを扱う際にも、システムティックな手続きに基づいて因果推論を可能にするという利点もある。

QCAではケースと変数の関係を論理集合の考え方を通じて捉えるため、「各事例が、各変数の基準をそれぞれの程度満たしているか」を表すデータセットを作成する必要がある(Schneider & Wagemann, 2012)。本研究計画におけるアントレプレナーシップにおける事業創造や転換に関わる変数を選択・定義するこの過程では、QCAにおける「限定された多様性 [limited diversity]」の問題の少しでも軽減するために、ケース開発を継続しながらその試行錯誤を繰り返すことになる。

そのことによって、単発のアドホック的なケーススタディに基づく理論言明の命題探索では到達することができないアプローチが可能となる。すなわち、具体的には一定程度の技術・市場・規制の変化に対応する企業家活動の事業立地や転換に対応する統治構造の解明である。すなわち、一定期間にわたって展開されるアントレプレナーシップ現象において、その創業者の働きだけでなく、付随する取締役会や株主、取引先の構成の変化を追跡し、組織的な過程としての経路依存性や因果複雑性に内在するパターンを明らかにすることができる。

4. 研究成果

研究成果の1つは、企業家研究フォーラム賞となった「バイオベンチャーのピボット」という実証研究で、ベンチャー企業の経営戦略の事業転換に対する萌芽的研究を、その企業統治特性や事業特性を踏まえた内容で、今後のこの分野の研究の一里塚となった。本科研による黒木淳教授との共同研究である。

研究成果の2つ目は、組織科学誌に掲載された「経営者による企業統治の監視中和化のメカニズム：女性取締役選任の先行要因の質的比較分析」であり、日本企業が女性を取締役に選任する要因について、質的比較分析(QCA)を用いて、新たな規範に従いながらも、外部からの監視を中和化させる複数のアプローチが存在することを明らかにした。その複雑な配置構成的な因果関係のアプローチには、外圧の源泉と組織の脆弱性の組み合わせ条件が存在し、経営者による役員会のジェンダー多様性を用いた企業統治の監視中和化のメカニズムが示唆される。

それ以外にも研究成果としては、Management Research Review誌に掲載された「A systematic bibliometric review of the strategic entrepreneurship domain」であり、戦略的アントレプレナーシップに広範囲な研究課題を解明する端緒をつくった。また、共同研究者・吉村典久教授による骨太な研究書「スピンオフの経営学」も上梓され、また高い評価を受けている。ただ、パンデミックの影響があり、豪日比較の実証研究については、Entrepreneurship Research Exchange Conference (ACERE) Conferenceでの発表後、論文は国際学術誌に現在投稿中のものと、データセットをフォローアップして拡充し、別論文としても投稿中である。

本研究の成果としては、アントレプレナーシップ分野の学会において学会賞を受賞する実証研究を上梓できたことや、社会科学の中心的な査読雑誌である組織科学にも質的比較研究論文を掲載したこと、国際査読誌にも論文を発表するなど、本研究プログラムが狙いさだめた分野において、一定度の高い成果を、難しい研究環境下において達成したと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 山田仁一郎；好川透	4. 巻 55(2)
2. 論文標題 経営者による企業統治の監視中和化のメカニズム：女性取締役選任の先行要因の質的比較分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 組織科学	6. 最初と最後の頁 31-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11207/soshikikagaku.20220111-3	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Gareth H Thomas , Evan Douglas , Jin-ichiro Yamada , Julienne Senyard	4. 巻 18 October
2. 論文標題 A Systematic Bibliometric Review of the Strategic Entrepreneurship Domain	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Management Research Review	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/MRR-11-2020-0709	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 高浜快斗, 堀口朋亨, 吉村典久	4. 巻 202210
2. 論文標題 同ルーツの企業は同じ戦略を選ぶのか：積水化学、積水ハウス、旭化成のハウス部門を比較して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper (202212)	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202210
2. 論文標題 小売業（GMS / イトーヨーカ堂）から業態転換・小売業（CVS / セブン-イレブン・ジャパン） 鈴木敏文	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202209
2. 論文標題 小売業（GMS / イトーヨーカ堂）から業態転換・小売業（CVS / セブン-イレブン・ジャパン） 鈴木敏文	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202208
2. 論文標題 化学（電気化学 / 日本窒素肥料）から住宅三社（積水ハウスなど）へ - 田鍋健	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202207
2. 論文標題 化学（セルロイド / 大日本セルロイド）から新たな化学（フィルム / 富士フィルム）へ - 春木栄	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202206
2. 論文標題 繊維（紡織・繊維機械 / 豊田紡織・豊田自動織機製作所）から自動車へ - 豊田利三郎 吉村典久	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202205
2. 論文標題 繊維（足袋 / 日本足袋）から化学（タイヤ / プリヂストン）へ 石橋正二郎	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202204
2. 論文標題 鉱業（久原鉱業）から電気機器（日立製作所）のスピンオフ 小平浪平	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202203
2. 論文標題 「スピンオフの先べん」 森村・大倉グループ・大倉和親	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 202202
2. 論文標題 スピンオフ企業の存在感	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OCU-GSB Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 494
2. 論文標題 「反対」のなかで新規事業を生みだした者たち	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 KPC NEWS	6. 最初と最後の頁 4-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 NA
2. 論文標題 スピンオフを通じての新規事業創造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MARR Online	6. 最初と最後の頁 NA
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 123
2. 論文標題 「スピンオフ」の経営学：成長のための処方箋(最終回)成長は「反対」から生まれる：スピンオフ型企業家たちの足跡をたどって(2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 究：ミネルヴァ通信	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 122
2. 論文標題 「スピンオフ」の経営学：成長のための処方箋(35)分家と本家、数々の物語：スピンオフ型企業家たちの足跡をたどって(1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 究：ミネルヴァ通信	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村典久	4. 巻 43121
2. 論文標題 「スピンオフ」の経営学：成長のための処方箋(34)二度目の「分家が本家をのみ込む」を生んだ「反対」 ：セブン&アイ・ホールディングス・伊藤雅俊と鈴木敏文(3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 究：ミネルヴァ通信	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤博之, 菅井俊輔, 平澤哲, 山田仁一郎, 横山恵子	4. 巻 37
2. 論文標題 パレーシアステースとしての企業家 小倉昌男にみる企業家的真理ゲーム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本ベンチャー学会誌・ベンチャーレビュー	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳 淳也, 川村 尚也, 山田 仁一郎	4. 巻 19(6)
2. 論文標題 「クリティカル・マネジメント研究」(“Critical Management Studies”)の系統的レビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 赤門マネジメントレビュー	6. 最初と最後の頁 165-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森口文博, 山田仁一郎, 黒木淳	4. 巻 36
2. 論文標題 パイオベンチャーのピボット：実態と要因分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ベンチャー学会誌・ベンチャーレビュー	6. 最初と最後の頁 13-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 博之、菅井 俊輔、平澤 哲、山田 仁一郎、横山 恵子	4. 巻 8
2. 論文標題 真理ゲームとアントレプレナーシップ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 組織学会大会論文集	6. 最初と最後の頁 14～19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11207/taaos.8.2_14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林 侑輝、坂井 貴行、山田 仁一郎	4. 巻 8
2. 論文標題 技術移転アソシエイトの役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 組織学会大会論文集	6. 最初と最後の頁 216～221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11207/taaos.8.1_216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田 仁一郎, Gareth Thomas	4. 巻 576
2. 論文標題 日本とオーストラリアの印刷ビジネスにおけるイノベーション : 業界の一大変革期を乗り越えるアントレプレナー達	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JAGAT info 日本印刷技術協会誌	6. 最初と最後の頁 18～21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 森口文博, 山田仁一郎, 黒木淳
2. 発表標題 バイオベンチャーのIPOとM&A : 記述統計からの考察
3. 学会等名 日本ベンチャー学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森暁彦, 山田仁一郎
2. 発表標題 IPO後のベンチャーにおけるガバナンス・シフト：規制産業下でスケールするベンチャー企業の比較事例研究
3. 学会等名 日本ベンチャー学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平澤哲, 横山恵子, 伊藤博之, 山田仁一郎, 笹井俊輔
2. 発表標題 パレーシアの行使と社会的企業家の倫理的な主体形成の探求 - 彼女は、いかにして、“ザ・ボディショップのアニータ・ロディック”になったのか? -
3. 学会等名 日本経営学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junya Yanagi, Jin-Ichiro Yamada
2. 発表標題 Entrepreneurial Behavior of Japanese Gay Men: A Perspective of Identity and Career Choice
3. 学会等名 SASE annual conference (Society for the Advancement of Socio-Economics)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳 淳也, 川村 尚也, 山田 仁一郎
2. 発表標題 「クリティカル・マネジメント研究」(“Critical Management Studies”)の系統的レビュー
3. 学会等名 The Japanese Standing Conference on Organizational Symbolism (JSCOS) 4th conference
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横山恵子, 伊藤博之, 平澤哲, 山田仁一郎, 筈井俊輔
2. 発表標題 パレーシア的企業家の理論的射程 ソーシャル・アントレプレナーシップ論による試論
3. 学会等名 日本ベンチャー学会全国大会第23回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林 侑輝, 崔 麗超, 山田 仁一郎, 吉村 典久
2. 発表標題 「共通の夢」実現手段としての非同族化：M&Aを通じた中小企業の第三者承継に注目して
3. 学会等名 日本ベンチャー学会 第23回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Yoshikawa, Michael Witt, Jin-ichiro Yamada
2. 発表標題 Female Director Appointments under Institutional Change: Neutralizing Response to Competing Logics
3. 学会等名 Academy of Management Annual Meeting
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Maria Vasileva Ilieva, Jin-ichiro Yamada
2. 発表標題 Strategic Renewal of an Organization in a Crisis
3. 学会等名 10th Annual Conference of the Academy of International Business (AIB) Latin America and the Caribbean Chapter
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口文博, 山田仁一郎
2. 発表標題 バイオベンチャーのトップ・マネジメント・チームと出口戦略
3. 学会等名 組織学会研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamada, J. and Thomas, G.
2. 発表標題 Entrepreneurial blind-spots and ecosystem changes - an attention-based view of the firm
3. 学会等名 Entrepreneurship Research Exchange Conference (ACERE) Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新村和久, 正城敏博, 犬塚隆志, 山田 仁一郎, 黒木淳
2. 発表標題 研究開発型大学等発ベンチャーデータを用いた国内における潜在的医療シーズの可視化
3. 学会等名 研究イノベーション学会年次学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤博之, 筈井俊介, 平澤哲, 山田 仁一郎, 横山恵子
2. 発表標題 真理ゲームとアントレプレナーシップ: パレーシアステースとしての企業家
3. 学会等名 組織学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ilieva, M. V. and Yamada, J.
2. 発表標題 Strategic Decision-Making Process for Recovery after a Fraud
3. 学会等名 日本経営学会第93回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ilieva, M. V. and Yamada, J.
2. 発表標題 How to Stop a Fraud: Internal and External Corporate Governance Mechanisms That Initiated Changes in Olympus Corporation
3. 学会等名 Association of Japanese Business Studies (AJBS)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ilieva, M. V. and Yamada, J.
2. 発表標題 Interactions on organizational, group and individual level for strategic decision making after a fraud
3. 学会等名 European Group for Organizational Studies (EGOS) Colloquium
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林侑輝, 坂井貴行, 山田 仁一郎
2. 発表標題 技術アソシエイトの役割 - 上市条件の質的比較分析 (QCA) -
3. 学会等名 組織学会研究発表大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 加護野 忠男, 吉村 典久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 碩学舎	5. 総ページ数 244
3. 書名 『新しいビジネスをつくる』	

1. 著者名 吉村 典久	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 スピノフの経営学：子が親を超える新規事業はいかに生まれたか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>成熟産業のイノベーションの国際比較調査（大阪市立大学×グリフィス大学〔オーストラリア〕） https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/pdfs2019/press_190820.pdf</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	黒木 淳 (Kuroki Makoto) (00736689)	横浜市立大学・国際商学部・教授 (22701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	吉村 典久 (Yoshimura Norihisa) (40263454)	関西学院大学・専門職大学院経営戦略研究科・教授 (24405)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
シンガポール	シンガポール経営大学			
シンガポール	Singapore Management University	INSEAD Asia Campus		
オーストラリア	Queensland Technology University	Griffith University		
オーストラリア	Griffith University			
シンガポール	Singapore Management University	INSEAD		